
2018年度 第4回

郵博 特別切手コレクション展

＜動植物国宝切手の神髄＞展

展示作品解説パンフレット



主催

郵政博物館、特定非営利活動法人郵趣振興協会

展示団体

動植物国宝切手の神髄展 実行委員会

後援

無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社

開催日時

2018年10月6日（土）10:00-17:30

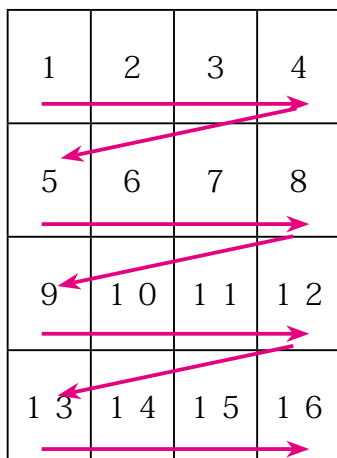
2018年10月7日（日）10:00-17:30

2018年10月8日（月・祝）10:00-17:30

会場：郵政博物館

切手コレクションの観覧順序

展覧会に展示される切手コレクションは、「展示リーフ」という用紙に整理されて展示されています。この「展示リーフ」は16枚ごとにパネルに収められ、各パネルで以下の順で展示されています。



従いまして、各パネルにおいては、展示リーフは、上段から、左から右へと、ご覧ください。

なお、切手コレクションの整理方法には様々なやり方がありますが、この展示方法は、分かりやすさ・コストなどの点で現在最も普及している方法で、日本だけでなく、欧米、アジア、オセアニア、アフリカの各国でも同様の方法が採用されています。

作品をご覧になられてのご質問や切手収集に関するご質問については、場内におります主催者・展示者にどうぞお声がけください。

＜動植物国宝切手の神髄＞展 開催にあたり

動植物国宝切手の神髄展 実行委員会事務局

須谷 伸宏

染井吉野 10 円、キク 15 円、菩薩 50 円、釣鐘 60 円など、懐かしい切手と思っていらっしゃる方も多いのではと思います。子供の頃手紙を書くのに使ったこともあるという方もおられると思います。今回はそんなちょっとだけ昔の普通切手のみを取り扱った専門コレクション展を開催いたしました。

これらの普通切手は、封書が 10 円時代に動物、植物、国宝を取り扱った図案を用いたシリーズとして発行されて、料金が 15 円、20 円、50 円、60 円、62 円と変わる毎に、図案も動物、植物、国宝の図案の範囲内で変更されました。これらを総合して動植物国宝切手シリーズと呼んでいます。

今回は、封書料金 10 円から 60 円までの各時代のシリーズの製造面、使用面に富んだコレクションを有志の 7 名のコレクターにより展示しました。本展示の展示者は全て動植物国宝切手分野の第一線で活躍するコレクターによるものです。この分野のレベルの高い専門コレクションが一同に集まることは滅多に無い機会です。しかも動植物国宝切手は、日本の普通切手の中ではもっとも取っ付きやすく、なじみのある分野です。

秋の三連休の中、動植物国宝切手の神髄そして魅力を本展示でお楽しみください。そしてこれらの分野の愛好家が一人でも増えましたら望外の喜びであります。

第一次動植物国宝切手 (5)

赤塚 東司雄

戦後の通常切手のシリーズとして昭和 25 年 11 月 1 日より約一年にわたって発行された第一次動植物国宝切手を扱った。

この作品では、80 銭多宝塔から 50 円弥勒菩薩までの単片 7 種、及び小型シート 4 種を対象とし、製造面を主に完全シートあるいは未使用ブロック・みほんで、使用面を使用された状況のわかる使用済み切手、並びにカバーの順で示しました。多彩な使用面が見どころですが、製造面も充実を図りました。



「動植物国宝図案切手（第1次～第3次）～消印と使用例～」(8)

山路 晴名

本展示は、昭和25年から40年にかけて発行された「動植物国宝図案切手（第1次～第3次）」の使用面に着目した8フレームの作品です。

このシリーズは、長期にわたり国内外の郵便物に幅広く使用されたため、バラエティに富んだ消印やカバーが見られます。この時代に使われた消印をタイプ別に分類整理するとともに、国内便・外信便のカバーを展示しました。カバーは、郵便史的に興味深い要素を含んだものも展示しました。



第三次動植物国宝（5）

吉田 敬

昭和36年から40年にかけて発行された通常切手で10額面存在します。すべての切手がグラビア印刷で製造された我が国初のシリーズです。

グラビア印刷はそれまでの製造方法（凹版、凸版、石版など）と比べて製造工程が複雑です。この為、グラビア印刷を本格的に導入した時期の切手は、洋の東西を問わず、製造面バラエティーが大きいのが通例です。

一例を挙げれば、イギリス切手では、1934年のKG5 グラビアシリーズがそれに当たり、確かに製造バラエティが豊富です。

この点に着目し、製造面の研究を行い、切手展に展示してきた作品を凱旋展示いたします。（全日本切手展2016 大金銀賞。国際展＜メルボルン2017＞金銀賞）今後も研究を続け、情報発信してまいりたいと思います。



90円切手（1962）の最初期印刷（左）と1965年印刷（右）

新動植物国宝 1966 年シリーズ (5)

水谷 行秀

切手印面に最初に「NIPPON」と表示された普通切手のシリーズです。

郵便の自動化が進められた時期に当たり、消印や郵便の種類などに見ることができます。

また、切手の製造でも試行錯誤していて、その痕跡などもこのシリーズに現れています。

これらをできる限り作品に取り込みました。



八戸 46.2.27 12-18

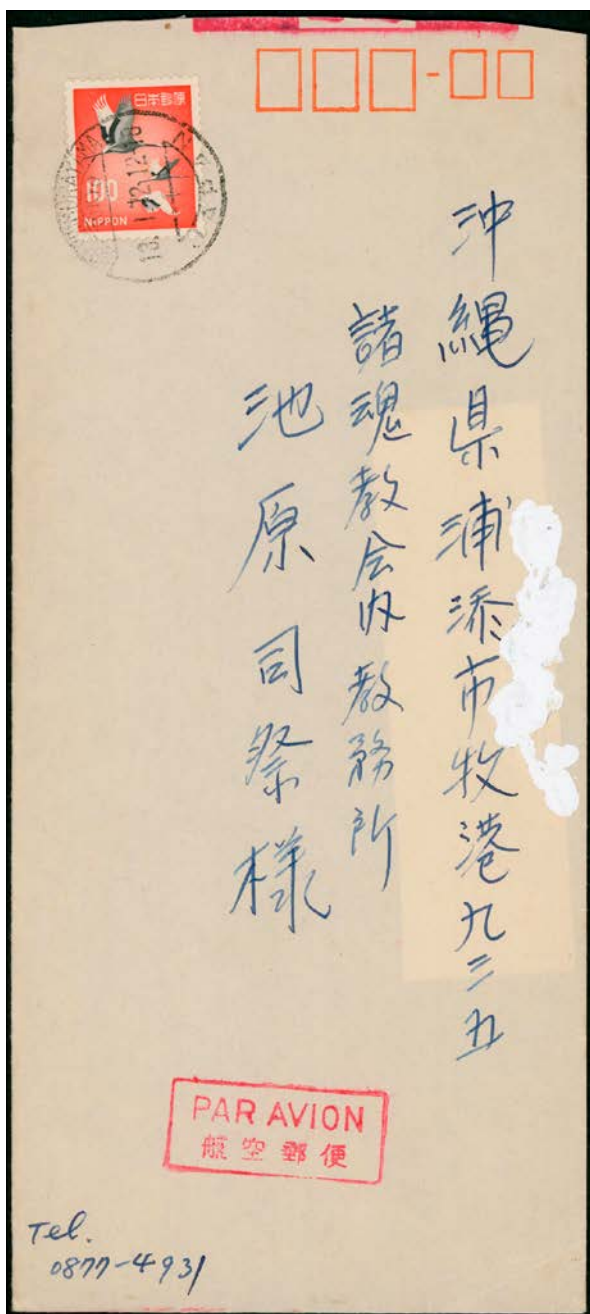
新動植物国宝 1966-69 (6)

永吉 秀夫

書状 15 円期発行の普通切手を整理した、基礎的なコレクションです。

希少品は多く含みませんが、製造面では目打や計数番号の豊富なバラエティを、使用面では書状 15 円期から 20 円・50 円期にわたって様々な用途に活躍した姿をご覧ください。また復帰直前の沖縄あて郵便に使用された姿も要注目です。

写真は国際郵便としての航空便料金 (30 円) と、国内速達料金同額の別配達料金 (70 円) のコンビネーションとして、100 円切手が 1 枚貼りで使用された例です。



66年シリーズ 発光切手 (1)

宮崎 幸二

発光切手7円金魚、同15円菊は、郵便の合理化を目的とし、大宮局における郵便物の切手貼付位置燐光検知による自動取り揃え押印機の機能実験のため、同局が配給局となる埼玉県東部地区と4中央局郵趣窓口のみで限定発売された郵便史上類まれなユニークな切手です。

この作品は、製造・使用の両面から、2年余りの大宮局での実験や限定地区での販売、46年の八戸局における15円の管理替発売まで、発光切手2種の全容を追ったものです。

発光切手の様に珍しい切手の満月印収集は、困難ですが楽しいものです。普通局上尾局の県名入機械印・櫛型印が見つかりました。



1976年シリーズ (4)

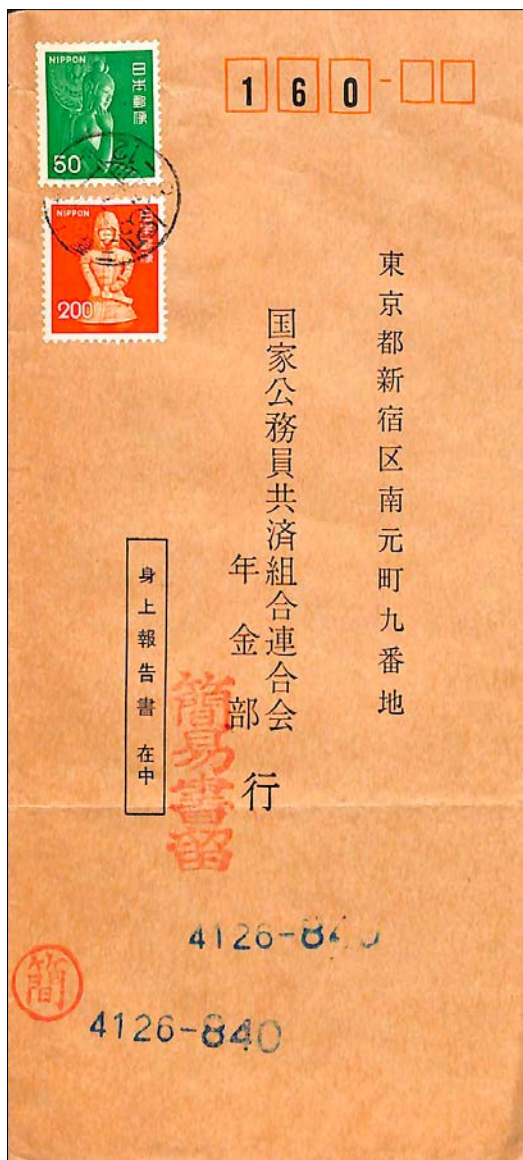
吉田 敬

1977年6月のある日、突然切手集めを開始した私の手元に最初に集まった切手は、10円鹿、20円松そして50円緑弥勒でした。

小遣いに限界のある中高生時代は色々な範囲に手を出し、どれもものになりませんでした。ゼネラルな収集経験が40年後の収集の基盤となったのは確かです。当時の収集方法は正解だったと、気づく今日この頃です。

動植物国宝・新動植物国宝は当時からリーフを作っていますが、欧米の展覧会でも通用する最新の手法で改めて全リーフを構成してみました。もっともマテリアルの中には高校時代に入手したカラーマークの使用済も含まれていますので、和魂洋才といったところでしょうか。

図は、50円コート紙を簡易書留書状に使った例です。

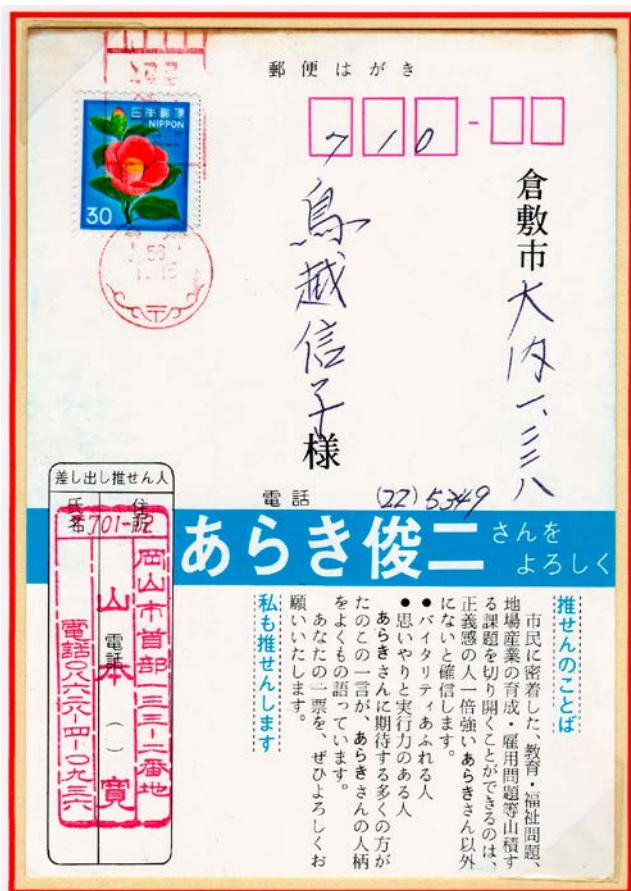


日本普通切手:1980～1988 (5)

須谷 伸宏

1980年から1988年までに発行された、いわゆる封書料金60円時代の普通切手(新動植物国宝シリーズ)のコレクションです。普通切手のみならず同時代に発行されたコイル切手、切手帳、慶弔切手、電子郵便切手も含まれます。これらの切手を製造面、使用面で分類しました。

製造面ではカラーマークを主体に、製版方式、スクリーン、目打、定常変種、製造エラーを展示しました。使用面では、単貼、多数貼りなど、魅力的な使用例の展示に努めました。



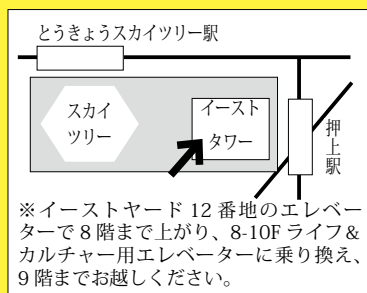
郵博 特別切手コレクション展

1902年(明治35年)に開館した「郵便博物館」に
その起源を遡る「郵政博物館」で開催される特別展です

2018年度に開催予定の特別切手コレクション展一覧

開催期間	特別展名
4/20-22	郵便制度史展 2018 ポスタル・ヒストリーのメイン・ストリームを織りなすコレクションの数々
6/23-24	南方占領地のフィラテリー展 第二次世界大戦中に日本が南方占領地で発行した切手の大河コレクション
6/30-7/1	郵便番号導入50周年展 郵便番号が1968年に導入され半世紀経過したことを記念して開催いたします。
10/6-8	< 動植物国宝切手の神髄 > 展 日本切手随一の人気シリーズである動植物国宝切手の魅力溢れる名菓の数々
10/13-14	珠玉の菊切手コレクション展 わが国における「菊」の最高峰コレクションが揃い踏み
11/3-4	第6回ヨーロッパ切手展 第一次世界大戦終結100年を記念したコレクションが勢揃い
2019年 2/2-3	第2回いずみ展 わが国郵趣グループのトップ・ランナーの実力がここに明かされる

特別切手コレクション展の開催時間は原則として午前10時～午後5時半ですが、初日だけ12時開始になる事が多いので、ホームページでご確認の上、お越しく下さい。



郵政博物館への行き方

所在地 東京スカイツリータウン・ソラマチ9階
※イーストヤード12番地のエレベーターで8階まで上がり、8-10Fライフ&カルチャー用エレベーターに乗り換え、9階までお越しください。

最寄駅 押上駅(東京メトロ半蔵門線、都営浅草線、東武スカイツリーライン、京成押上線)、とうきょうスカイツリー駅(東武スカイツリーライン)両駅から直結。

共催 郵政博物館、特定非営利活動法人郵趣振興協会

<http://kitte.com>